

HAGI Times

姫路市議会議員 萩原ただすけ
[新生ひめじ] 市政報告

2015 Feb.
Vol.14

〒679-2123 姫路市豊富町豊富1669 Tel/Fax:079-264-2805(代) E-mail himeji@t-hagiwara.com



- ごあいさつ
- 2014年12月 姫路市議会一般質問について
- 市街化調整区域におけるまちづくりについて

ごあいさつ

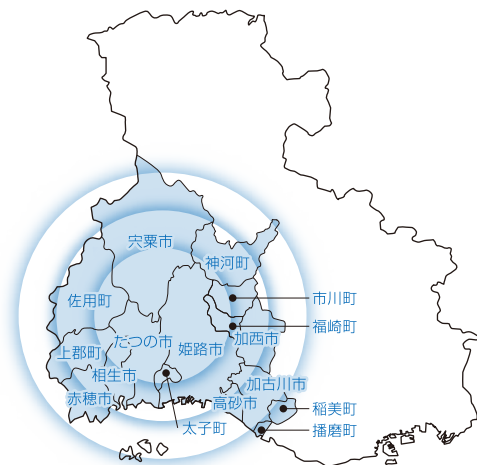
平成27年、未年がスタートしました。姫路市にとって今年、2月22日の世界遺産姫路城マラソン、3月27日の姫路城のグランドオープン、5月のゴールデンウィークの改修記念のお城まつりなど、市内外を問わず多くの方が姫路を訪れる華やかなイベントが目白押しの1年となりそうです。

また、平成27年度からは、姫路市が中心市となって進めてきた地方創生の手段の一つでもある地方中枢拠点都市制度^(※)がスタートする他、子ども子育て新制度が始まるなど、地方が地方のやり方で「まち」を元気にするための元年となります。

先日、国の平成27年度予算案が閣議決定し、一般会計で約96兆円の前身が示されました。地方創生に取り組む姿勢を明確にし、地方の財源は過去最高となっています。また、子育て支援策を手厚くしていることも特徴の一つとしてあげられます。姫路市議会3月議会でも国の政策を受けて、平成27年度予算審議が行われる予定ですので、地域が元気になる地方創生の取り組みや子育て支援施策の審議にしっかりと臨みたいと思います。

私もこれまでの経験を活かしながら、地域はもちろん、姫路市全体をしっかりと見つめ直し、なお一層邁進していきたいと思っております。

地方中枢拠点
都市制度



※超高齢化・人口減少社会にあって、個々の自治体ではなく、地方都市が相互に連携し、暮らしや経済を考えようという取り組みです。

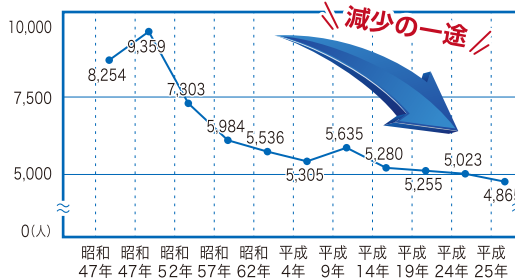
萩原ただすけの 一般質問

12月議会において、会派の時間をいただき、8回目の一般質問をさせていただきました。今回は、10月の会派の予算要望でもテーマの一つに掲げた少子高齢化・人口減少社会における姫路市の施策展開に関連して質問をしました。

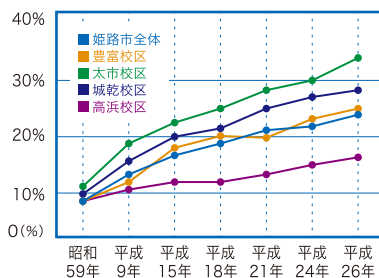
姫路市の少子高齢化の傾向について

出生数は、昭和40年代後半を境に減少しており、現在ではピーク時の半数となっています。30年前は10%にも達していなかった高齢化率は、現在約25%となっており、地域間格差も大きくなってきていることがわかります。

少子化<新生児の出生数>

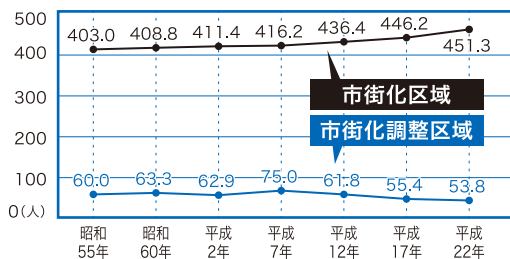


高齢化



都市計画の人口について

都市計画の線引きの見直しにより市街化区域に編入された区域があります。市街化区域では人口が伸び続けていますが、市街化調整区域では、人口が減少していることがわかります。



これらの状況を踏まえ、質問をしました。特に3項目について裏面でお知らせいたします。



市街化調整区域におけるまちづくりについて

昨年の流行語の一つに「消滅可能性都市」という言葉がありました。日本全国が人口減少社会に突入しており、30年後には都市としての機能を失うところも出てくると言われています。姫路市でも平成23年をピークに人口減少社会に突入しました。特に、市街化調整区域では、人口減少・少子高齢化のスピードが速くなっています。「まち」をつくるのは人であり、人口減少は、まちづくりにとって大きなマイナス要因になります。

姫路市では、都市計画マスタープランの改定作業を進めており、3月議会で最終決定されることになっています。この中には、市街化調整区域のまちづくりについて、私がこれまで提案してきた「特別指定区域制度」^(※1)が盛り込まれている他、インターチェンジ周辺の土地利用を促進するため「地区計画制度」^(※2)が導入されます。また、アンケート調査の結果で、住民の皆さんが多く望まれている「何らかの規制緩和」や「買物など日常生活の利便性の向上」について、住宅建設における制限の緩和やより利用しやすいコミュニティバスの導入について市当局に提案しました。

※1) 特別指定区域制度 住民が中心となって組織するまちづくり協議会が、地域の課題を解決し、その将来の姿を描く土地利用計画作成し、計画に沿ったまちづくりを実現していく制度

※2) 地区計画制度 住民の意向を反映しながら、道路や公園の施設や建築物のつくり方をあらかじめ計画し、その実現を図る制度

ただすけ意見 今回の特別指定区域制度の導入は、市街化調整区域の急激な人口減少・少子高齢化の阻止への大きな1歩にはなりますが、十分とはいえません。より効果的で使いやすい制度になるように継続的な見直しを図っていく必要があると考えます。

子育て支援制度について

姫路市では、病児病後児保育の利用者が見込みを大きく下回っています。原因として家族構成なども挙げられますが、施設の配置や病院との連携などの課題もあると感じています。特別委員会視察で行った大分市では、病院との連携がしっかりとれており利用者も姫路市の20倍以上となっています。この例を出しながら、姫路市での子育て支援のあり方について質問をしました。

【答弁】 今後、地域偏在を解消するとともに、姫路市医師会と協議を行い医療機関併設型の病児保育も検討します。

ただすけ意見 病児病後児保育の重要性は、子育て世帯の皆さんが感じていると思います。医療機関との連携を図ることで、現状の施設も安心して運営できるとともに、補助の仕組みも改正して、運営しやすい状況を作ることも必要であると考えます。

認知症対策について

日本では現在、“認知症の疑いあり”も含めると高齢者の4分の1の方が、認知症であると言われています。姫路市でも、グループホームの施設数を増やしたり、認知症サポーター制度を普及させる対策を講じていますが、決して十分とはいえません。認知症予防に取り組んでいる市町村も出てきており、その対策について提案しました。

【答弁】 認知症予防の取り組みは他都市での例もいくつかあるので、より効果のある予防策を前向きに検討します。

ただすけ意見 今後、団塊の世代が後期高齢者になる2025年頃には、認知症の方の数が大幅に増加することが懸念されます。日頃から認知症になりにくい対策や軽度のときに対応できるような対策が急務であると考えます。

事務所開きのご案内

下記のとおり、事務所を開きます。
皆様、是非お越しくださいますよう、お願い申し上げます。

平成27年**2月15日**【日】午前10時～
〒679-2123 姫路市豊富町豊富1525-1



profile

昭和48(1973)年2月14日姫路市豊富町江鮎生まれ 【家族】妻/宜子、長女/弥玲、父/勝義、母/瞳 【学歴】豊富小学校卒業後、白陵中学校・白陵高等学校卒、法政大学法学部法律学科卒 【現在】議会/厚生委員会委員、子育て支援対策特別委員会委員、議会運営委員会委員 【会派】新生ひめじ幹事長 【主な経歴】文教委員会委員長(2回)、建設委員会副委員長、総合交通計画策定特別委員会副委員長、文教委員会副委員長 【その他】姫路市ソフトボール協会副会長、裏千家淡交会播磨青年部副部長、姫路スターライオンズクラブ第一副会長、一般社団法人 兵庫県特産物発信協会顧問

市政などに関する
ご意見・ご相談は

萩原ただすけ事務所

〒679-2123 姫路市豊富町豊富1669
Tel/Fax079-264-2805

E-mail:himeji@t-hagiwara.com
http://www.t-hagiwara.com